

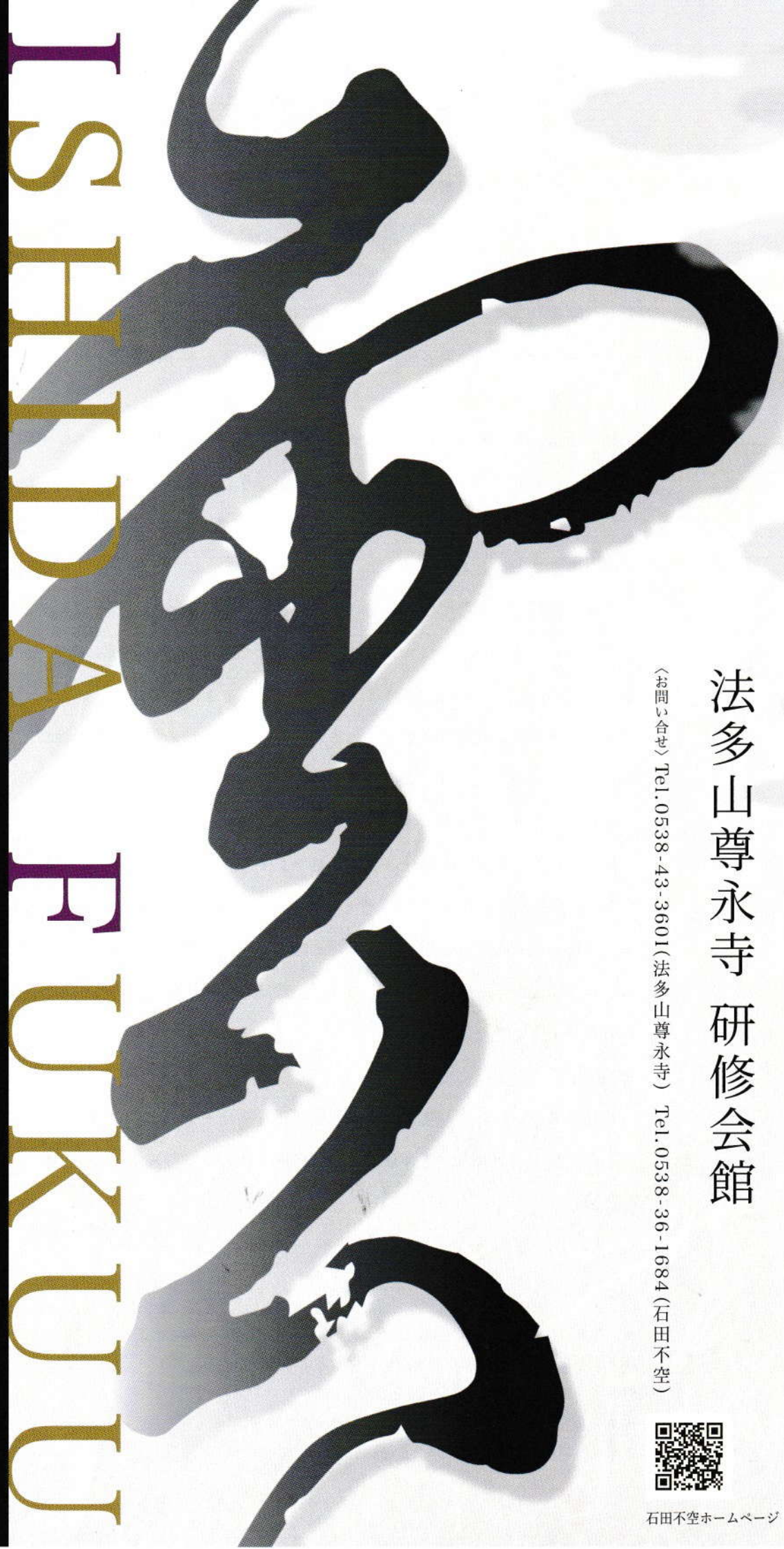
令和5年12月13日(水) — 17日(日) 10時〜16時

法多山尊永寺 研修会館

〈お問い合わせ〉 Tel.0538-43-3601(法多山尊永寺) Tel.0538-36-1684(石田不空)



石田不空ホームページ



ISHIDA UKKUN

弘法大師 空海ゆかりの名刹を彩る、洗練された書の世界

石田不空書芸展

人を、想う書

自らの成した仕事に満足できることは、とても幸せなことだと思います。満足できるほどの仕事を成すまでが大変であることは言うまでもありませんが。さらにその仕事が、私の場合は私の「書」が人を幸せにできたのなら、これ以上の幸せはありません。

そんな作品を作りたいと思っています。また、そんな作品を作って人を幸せにしたいと願う書家でありたい。

贈り物は、その種類としてお菓子や雑貨、絵画、書などいくつもあります。ではどんなシチュエーションが人に「書を贈ろう」と思わせるのでしょうか。

「大好きな友人、家族の記念日」や、「進学や就職、結婚、新築などのお祝い」に書を贈ることもあるでしょう。

一方で困難に直面している家族や友人を元気づけ、励ますために書を贈ることもあるでしょう。と、ここでふと思い当たるのがいくつか過去にありました。もしかしたら困難の度合いが深いほど、人は文字の力を待む^{たの}のではないのでしょうか。だとすればお祝いの贈り物としての書も、そこまでの道のりが決して容易ではなかったからこそ、人は「書」に、その想いを託して贈りたいと思ったのではないかと。お菓子や雑貨、絵画ではなく「書」を。

作品を作ることは並大抵のことではありません。そもそもお手本など無いわけですし、製作過程で書体や構成、サイズを見直し、筆を替え、紙を替え、墨を替え、千枚を超えてなお完成しないこともあるほどです。そのような苦勞の末にでき上がった作品だからこそでしょう、きっと。選ばれるべき時と、場合があるのは。私の書が、人を幸せにする。

私の書は、人を幸せにできる。

その幸せをかみしめ、私は今日も作品を作り続けます。

人の、静かだが強い、そんな「想い」に応える書家であることこそ、私の使命だと信じ。

石田不空 (いしだふくう) プロフィール

沼津高専、広島大学工学部卒。ファナック(株)エンジニアを経て書道家となる。

法多山をはじめ、沼津御用邸や京都、宮崎などで個展を開催。

磐田市内の各所で書道教室や細筆講座を開催。

毎年「静岡知名人チャリティー色紙展」に作品を寄贈。

企業及び店舗ロゴ、商品ロゴなどの揮毫多数。